

令和8年度 県立竹園高等学校自己評価表

目指す学校像	未来においてよりよい社会のつくり手を育むための場をつくるため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。 ○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図ることができる資質能力が育つ学校。 ○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重し合意形成を図ることができる資質能力が育つ学校。 ○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間が育つ学校。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	理想の社会を問いつつ、よりよい社会のつくり手の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	「自由・自律・愛」の校風のもと、主体的に判断し失敗を恐れず挑戦することや、社会とつながる学びを通して、生徒一人ひとりの自己実現と進路実現を支援する。	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	自由の下、自律して成長できる意思のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>【学習支援】 ICTを積極的に活用し、授業の質を向上させるとともに、「授業第一」をモットーに、生徒が主体的に学習に取り組む環境を整える。素直で誠実な生徒が多く、高度な学びに対する潜在能力を感じる。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法を工夫し、授業を通じて生徒が学問に対する関心を深め、将来の進路選択に向けて広い視野を養えるよう努める。</p> <p>高度な探究活動や視野の拡大につながるよう、授業研究をさらに推進する。</p> <p>探究活動を一層充実させ、各教科での学びをより深めるための指導法を模索する。</p> <p>【進学支援】 難関国公立大学への進学希望者が増加しているため、より効果的な情報提供と面接指導を重視した、個別対応の進学指導体制を強化する。令和8年度選抜の国公立大学合格者は170名(東大5名、京大2名、東北14名、筑波大44名など)だった。生徒一人一人の希望を実現するため、更なる進路指導の充実が必要である。</p> <p>初期指導の重要性は教職員の間で認識されては</p>	1 学習支援－基礎学力の定着と高い学力(発展的応用力)の育成－	(1)アカデミックな授業－竹高生の「凄さ」(ポテンシャル)が「輝く」授業づくり－ ・「授業第一主義」の理念のもと、日々の授業のなかで生徒、教員がともに真摯に学びあう姿勢を追求し、基礎学力の定着と高い学力の育成を目指すとともに、主体的に考えて行動できる生徒を育む場を実現する。① ・「質の高い授業」を行うことで、授業を通じて生徒が学問に対する興味と関心を高め、将来の進路選択に向けて広い視野と幅を広げられるようにする。 ・生徒の授業満足度を高める(生徒アンケートで授業満足度の平均3.5以上【KPI】)。 (2)教員個々の授業力と教科としての授業力の向上 ・現在求められる資質能力の育成を目指した「質の高い授業」を実現するために授業力向上を推進する。② ・相互授業見学、生徒による授業評価、教科マネジメントの確立、教科内の教材の共有や考査問題の検討、各種研究会や予備校が行う教科指導法の研修への積極的な参加を通じて、教科指導力を向上させる。 ・ICT機器、AIやアプリの活用など、一人1台端末を利用した指導方法や教材の活用、評価方法の改善など、教育改革の動きに積極的に対応した授業改善を進める。 (3)主体的に学ぶ意欲・態度の育成と基礎学力の定着 ・生徒の自学自習態度の育成のための支援を行う。 ・生徒一人一人の学習時間の把握や学力の分析を通じて、個に応じた支援を適切に行う。 ・「指導と評価の一体化」を推進する。観点別評価を含む評価方法を工夫して、生徒の学習意欲の喚起につなげるとともに個に応じた支援を行う。 (4)高い学力(発展的応用力)の育成 ・生徒の知的好奇心を刺激し、主体的で深い学びへと導く魅力ある授業や取り組みを実践する。 ・大学入試問題の研究や分析を行い、目標レベルを明確にした授業や課外、質の高い問題による考査を実施する。 (5)探Q、クロス・カリキュラム、文理横断型授業、ACEプログラムなどの推進 ・生徒が深い思考力や判断力、表現力を身につけ、さらに高度な探究や視野の拡大につながる授業や学習活動と位置づけ積極的に推進する。 ・探Qでは、全校で組織的に円滑に行う体制を構築し、生徒の探究活動を支援する。 ・図書館の積極的な活用を維持する。 ・クロス・カリキュラムや文理横断型の授業を行うことで、大学が求める資質・能力を身につける基盤とする。 ・ACEプログラムを充実させ英語によるコミュニケーション能力の育成と向上を図る。	

<p>いるものの、学校としてそのための具体的方策の共有が弱い。</p> <p>学年間の進路指導にばらつきが見られたため、本校「進路マップ」を基に、一貫性のある進学指導体制を構築する。また、進路実現の鍵を握る初期指導プログラムの構築を図る。</p> <p>面談を密に行い、進路相談を充実させ、各生徒の進路希望を把握し、目標に向かって粘り強く取り組む姿勢を育成する。</p> <p>東京大学、京都大学、難関 10 大学や医学部医学科など、非常に高い目標を設定し、生徒がその目標に到達できる学力を育成する。</p> <p>年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)の指導体制をさらに強化する。</p>	<p>2 進路支援－生徒・保護者の進路希望の実現、地域社会の期待に応える－</p>	<p>・3年間の系統的組織的な進路支援体制を構築する。進路支援の計画を明確にし、学習支援にリンクした進路マップを活用して生徒・保護者に主体的な進路決定を促す。特に、早期に学習習慣が身に付くよう支援する。③</p> <p>・年内入試(総合型選抜、学校推薦型選抜)の増加、理工系における女子枠の増加など、多様な入試制度に対応した進路支援体制を確立する。④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己実現、「高い志」をもって進路目標が設定できるためのキャリア教育の充実を図る。 ・保護者対象の進路説明会や講演会を実施して、本校の進路支援に対する保護者の理解と協力を得る。 ・チャレンジ・プロジェクトの取組で実施する東京大学探Qツアー、東北大学見学ツアーなどの大学見学、オープンキャンパスや大学が個別に実施している様々な企画や講演会などへの積極的な参加、本校で実施する進路講演会、模擬授業などを充実させることで、大学の教育内容や特色、仕事の魅力や意義を理解させる。 ・学年との連携を図り、進路相談機能を充実させる。 ・蓄積されてきた進路データの分析とその共有を通して、進路支援のノウハウの共通理解を図る。 ・生徒・保護者に進路情報を適切に提供する。 ・夏季休業期間中などの課外のあり方を検討し、生徒の進路実現に資する内容で実施する。 ・模試の結果を分析し、全教員で生徒の正確な学力を把握し、授業改善に活かす。 ・『進路要覧』を活用した進路学習など、生徒の進路意識を向上させるとともに、過去の進路データを生徒・保護者に示して進路決定の一助とさせる。 ・学習館の積極的活用を維持する。 	
<p>【生徒支援】</p> <p>多くの生徒は高い規範意識を持ち、問題行動はほとんどないが、学校生活に不安を抱える生徒も多く、きめ細かな支援を継続的に行う必要がある。</p> <p>生徒が自らの生活習慣や規律を確立し、健康的でバランスの取れた学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>あいさつや交通マナーなど、よりよい学校づくりに向けた生徒の主体的、自発的な活動を支援する。</p> <p>【特別活動支援】</p> <p>生徒会や実行委員会により、学校行事の企画・運営が生徒主体で行われている。部活動の加入率も高く、生徒が自己表現を通じて自己肯定感や自己有用感を高めることができるよう支援する。</p> <p>【働き方改革】</p> <p>教職員は一人一人が誇りを持ち、充実感を感じながら教育活動に取り組んでいる。業務の効率化を図り、行事の精選を行っているが、全体的に多忙感否めない。時間外在校等時間における月平均時間は 26 時間 18 分、月平均 45 時間超過者割合は 12.0%、月平均 80 時間超過者割合は</p>	<p>3 豊かな人間性と心身のたくましさの育成</p>	<p>(1)生活規律の向上と自己管理能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・家庭との連携・協力のもと、生徒が自ら基本的な生活習慣や生活規律を確立するよう支援する。 ・あらゆる機会を通じて、挨拶の励行、自己規律、公共心、規範意識を育てる。 ・登下校時の安全確保と交通マナーの向上を図る。 ・公共ルールの遵守、スマートフォンやSNS等の適切な利用を促す。 <p>(2)安全・安心な学校生活の実現</p> <p>・すべての生徒の命・人権を第一に考え、生徒が安心して学校生活を送ることができるように努める。⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動教室等の時は、盗難防止や不審者の侵入防止を目的に施錠を徹底するとともに、生徒への注意喚起を常時行うことで学校事故の発生を防止する。 ・盗難事件等、学校事故が発生した場合は、管理職、生徒支援部、学年主任、担任の連携と情報共有を徹底し、迅速な対応を行う。 ・「18歳で成人となる」ことを自覚させ、あらゆる機会を通じて非違行為は絶対に許さない姿勢を生徒に示す。 ・いじめは絶対に許さない姿勢を生徒に示し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。 ・交通安全教室、薬物乱用防止教室等を通じて、保護者・家庭の協力を得ながら生徒の安全確保に努める。 ・生徒の自主的な活動を充実させ、生徒の自主性を伸張させる。 <p>(3)学校行事・部活動などの課外活動・学校外活動</p> <p>・学校行事の企画運営を、より一層生徒主体で行い、成功体験を積み上げ、失敗も学びにつなげながら、生徒に安全安心な活動環境を提供できるように努める。⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動などの課外活動に積極的に参加する生徒が多いことから、積極的に活力ある充実した学校生活を実現するよう支援する。 ・生徒たちに下校時間の遵守など責任ある活動を実現させる。家庭学習の確保など、引き続き、学習と部活動などの課外活動の両立をスマートに実現するよう支援する。 ・部活動指導方針の遵守、体罰絶対禁止など、充実した部活動を推進する。 ・各種コンクール、コンテストや課外での行事、地域社会での行事やボランティア活動等に積極的な参加を促していく。 ・学年、進路支援部、特別活動支援部が連携して、キャリアパスポートの活用を推進する。 <p>(4)快適な教育環境の維持、学校保健の共通理解と協力体制、教育相談の充実</p>	

<p>1.2%であった。部活動指導による超過者も多い。</p> <p>教員が専門的スキルを高めるため、また生徒と向き合う時間を確保するために、さらなる業務見直しを行い、超過勤務時間の削減を目指す。</p> <p>学年や校務分掌、教科等の枠を超えた協働体制を強化する。</p> <p>事務室との連携・協働を進め、学校のマネジメント機能を強化する。</p> <p>【事務室】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・快適な教育環境の維持のため生徒による主体的な活動を促し、校内美化や衛生環境の向上を図る。 ・生徒の心身の健康の維持や安全の実現のため、全教職員が学校保健に関する共通理解を深める。保健室との連携、保健厚生部や教育相談部との連携と協力体制を大切にし、迅速かつ機動的に対応する。 ・生徒・保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう情報の共有を図る。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を充実させ、生徒支援を実現する。 ・特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーとの連携を密にして、心身の健康に不安を持つ生徒・保護者に対する相談支援体制、個別の支援計画を必要とする生徒への支援を充実させる。 ・「生徒一人一人を大切に人権が尊重された教育活動」を基盤におき、すべての教育活動において「自分を大切にし、他者を大切にし、多様性を認め、そのなかで自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。 	
<p>予算の効率的な執行を行い、校内環境の整備を進めている。</p> <p>事業の優先順位を踏まえ、経費削減を目指しつつ、計画的な執行に努める。</p>	<p>4 PTA、同窓会、地域社会との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>PTAとの連携を深め良好な協力関係を構築することを通じて、保護者・家庭の学校での教育活動に対する理解と協力を得るよう努める。⑦</u> ・同窓会は教育環境の整備や生徒への支援活動（関東大会やインターハイに出場する生徒に激励金を贈呈等）に尽力していただいている。引き続き良好な関係を維持し、学校の教育活動の充実を図る。 ・高大連携（探Qでの筑波大学との連携）、中高連携（竹園東中学校等との相互授業参観）を強化する。竹園東小学校、竹園西小学校への外国語授業参観などを継続して実施し、竹園高校への理解を深めてもらう。 	
<p>施設設備の安全面の維持や、植栽などの環境整備を実施する。</p>	<p>5 募集・広報活動 －情報発信の充実と開かれた学校づくりの推進－</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>本校を取り巻く社会や教育環境の変化に積極果敢に対応して、生徒の成長した姿が見える広報活動を実践する。⑧</u> ・学校WEBページやオンラインコンテンツを充実させ、教育活動の様子や「頑張る竹高生」の姿を発信する。 ・学校説明会や学校公開を充実させ、本校の授業や部活動への中学生の理解促進を図り、本校の魅力をPRして志願者の一層の確保を図る。 ・本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、「竹園高校で学びたい」という意欲旺盛な志願者の獲得を目指す。 	
<p>学校運営・組織体制－職場環境のさらなる改善、働き方改革、事務室との連携－</p>	<p>6 学校運営・組織体制－職場環境のさらなる改善、働き方改革、事務室との連携－</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会で議題の整理を徹底し、職員会議の時間短縮を進める。 ・ICT機器の活用による校務の効率化、ペーパーレス化の促進を行う。 ・<u>業務内容に関する教職員からの提案を積極的に取り上げ、時間外在校等時間を減らしつつ、働きがいのある職場づくりを推進する。⑨</u> ・学年、校務分掌、教科等の枠を超えた全職員の協働体制で仕事にあたる。 ・事務室との連携を大切にして、予算の適切な執行をはじめとする様々な業務を正確に進める。 	
<p>コンプライアンスの遵守</p>	<p>7 コンプライアンスの遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>厳正な規律と高い倫理感を持って職務に精励することで、生徒・保護者・地域社会から信頼されるよう努める。⑩</u> ・教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、厳正な規律をもって服務規律を遵守して職務に取り組む。 ・教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、厳正な規律をもって服務規律を遵守して職務に取り組むとともに、自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じ、教員自らが成長できる職場環境の実現を目指す。 ・言動に注意すること、ミスのない仕事を意識し徹底することで、生徒・保護者の学校に対する信頼を失わないようにする。 	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科 国語	基礎学力の充実を図る。	学習計画に基づき計画的に授業を実施し、新課程における共通テストを見据えた学力の育成を図る。①②		
		小テストを実施し、基礎学力の定着と予習復習の習慣を身に付けさせる。②③		
		生徒の理解度・興味関心に応じて適切に教材を選定し、個別に働きかけ、学習意欲を喚起する。①②④		
	発展的学力の向上を図る。	国語を適切に表現し的確に理解する能力を身に付けさせるとともに、今後の社会生活に資するような論理的思考力及び表現力を伸ばすために、主体的・対話的な授業展開を工夫し、また授業改善を目指し、国語科の教員間で研究する。①②③④		
		問題集を精選し、その取り組みを促すことで、自学自習の態度を身に付けさせるとともに、確かな学力の向上を図る。①②③④		
		難関大学入試問題に対応できる国語力育成のために、論述問題や小論文指導の充実を図る。②④		
地歴公民	指導方法の工夫改善に努め、授業を軸とした基礎学力の定着を図る。	学習指導計画に基づき指導内容・方法の改善と充実を図りながら、授業を軸とした学習サイクルを確立することで、基礎学力の定着を図る。①②③		
		教科内外で相互授業見学(授業研究期間)、生徒による授業評価の活用を通じて、授業改善を一層推進し、さらにICTを活用した授業展開による生徒の能動的な学びを促す授業づくりができてきているかの検証を行う。②③		
	教科間で連携し、発展的学力の向上に努める。	歴史的・地理的・公民的視野に立った思考力を育成するため、授業における主体的・対話的で、深い学びの取り組みや論述問題を取り入れた考査等を実践する。②④		
		教科間で連携をとり、大学入試に対応できる発展的学力の育成を目指す。③④		
数学	新課程入試に対応出来る授業内容の充実を図り、思考力の育成に努める。	教科担当者間で教材を共有し、相互授業見学等を行い、授業の進め方、情報交換、授業研究を通して授業の改善を図る。①②		
		クロスカリキュラム、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体的かつ対話的な学ぶ姿勢を作り、教員、生徒がともに真摯に学び合う姿勢を追求する。①②④		
		各考査及び模擬試験により学力の定着度合いを分析して、その結果を指導に生かす。④		
		新課程入試における共通テスト、大学入試に対応出来るような授業の見直しを進める。④		
		関連する発展的内容を扱い、思考力と成績上位層の育成に努める。④		
	学習習慣の定着を図る。	教科書傍用問題集を定期的に評価することで学習習慣の確立を促す。①④		
		各学年で課題(小テスト、章末テスト等)を設定することで、復習内容の高質化を図る。①②④		
		長期休業中の課題を工夫し、自学自習の習慣を確立させる。①②④		
	基礎学力の向上を図る。	各考査後の解き直し(弱点ノート等)を徹底させることで、深い理解を促す。①		
		基礎学力が不十分な生徒に対して補習・追試を実施する。①⑤		
教員への質問を奨励し、個々の理解度に応じた対応を心掛ける。①⑤				
理科	知識及び技能と学習習慣の定着	授業後の振り返りや課題、小テスト等を実施する。①③		
	「理科の見方・考え方」に必要な思考力、判断力、表現力等の育成	真摯に学び合う姿勢を追求し、授業中に主体的・対話的で深い学びや探究的な学びを行う場面を設定する。①		
	実験・実習・観察時間の確保と質の向上	年間指導計画を見直し、実験・実習・観察を行う授業時間の確保を図る。① 実験・実習・観察において、生徒が主体的に取り組むことができる場面を増やす。①		
	ICT活用による学習効果の向上	実験データや観察結果を分析・発表する活動や、学習を振り返る活動において、ICTを効果的に導入する。①		
	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の育成	高度な探究や視野の拡大につながる授業を行うとともに、生徒の探Qテーマ設定の支援を行う。②④		
保健体	授業の充実を図る。	体育:生徒が主体的に活動する授業の実現とともに、各生徒へ適切なアドバイスやICTを活用して個人技能の段階的な向上を目指す。また生涯スポーツの基盤づくりとして体力の維持増進を意識させ、仲間との交流を通じ各運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう授業改善を図る。①②		
		保健:各単元の理解を深められるよう、ICTやグループワークを活用し授業改善を図る。また、観点別指導の周		

		知・徹底を図り、「指導と評価の一体化」を図る。他教科の授業を参観し、教科横断的な素養を醸成する。①②		
	体育授業における事故防止に努める。	準備運動の徹底、道具の管理や使用方法などについて注意を促す。体調不良や怪我が起こった場合には、養護教諭と連携し迅速かつ適切な処置を行う。⑤		
		当日の天候やグランドコンディション等の状況に応じて授業で取り扱う種目を検討する。⑤		
		引き続き、感染症対策や熱中症対策を周知し、感染拡大の防止や暑さによる生徒への事故防止に努める。⑤		
芸術	授業内容の充実を図る。	幅広く芸術活動を紹介し、様々な表現方法を通じて、生涯にわたり芸術のよさや美しさを感じ取り味わえるようにする。①		
		我が国及び諸外国の歴史や文化的背景などとの関わり及び多様性を学び、それぞれの芸術文化についての理解を深め、多様な価値観を認め合う資質や能力を育成する。①		
		生徒の興味関心をアンケート等でリサーチして、充実感の高い授業内容・題材を精選・検討する。②		
	基本的な知識や技能を身につけ、表現の能力を伸ばす。	生徒個人の表現能力や進捗状況を的確に把握できるように観察し、個別指導を丁寧に行い表現力の向上に努める。①②		
		様々な表現の諸活動を通じ、各自表現したい内容を確認して表現方法を定める。①⑥		
		主体的・協働的に表現の諸活動に取り組み、創意工夫を生かした表現活動をするに必要な技能を身に付けるようにする。⑥⑧		
外国語	授業を中心とした基礎学力の定着	予習・授業・復習の学習サイクルを確立し、生徒が学習の振り返りをもとに自ら課題を発見し主体的に学習改善できるよう、一貫した教科指導を行う。①		
		学年・科目を超えた意見交換を定期的に行い、指導法や教材を共有して授業改善につなげる。②		
	グローバルリーダーの育成を目指した思考力・表現力の向上	ACEプログラムを体系的に再構築し、英語4技能を統合した指導法の研究と実践を進め、社会で求められる論理的思考力・コミュニケーション力の育成を目指す。②		
		プレゼンテーション・ディベート・ディスカッションを教科横断的に組み込み、社会課題を多角的に捉え、協働的に解決へ向かう姿勢と表現力を育てる。②		
	国際社会での活躍を見据えた外部検定試験等の活用	多様な外部検定試験の受験を促し、大学入試対策にとどまらず、将来のキャリア形成に資する語学力を継続的に伸ばす学習を支援する。②・④		
		外部模試のデータを分析し、授業改善や個別支援に反映させることで、学力向上を支援する。③		
家庭	学習内容の精選と授業内容の改善を図る	各単元の学習内容の精選と見直しを進めながら質の高い授業のための改善を図り、生活のあらゆる場面でよりよい意思決定ができるよう促す。②		
		1人1台端末を利用し、単元によってWEBコンテンツを活用した授業展開に努める。		
	一人の生活者として必要な基本的な知識・技術力の向上を図る	衣製作実習や調理実習など体験型学習を多く取り入れ、効果的な振り返りを通して、自らの家庭生活の充実向上を図り、生きるための「知識・技能」を養う。①		
		ホームプロジェクトの実践と発表・相互評価を通して、主体的に生活課題を解決する力を養う。①		
情報	情報化社会で活躍できる、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	授業では電子機器での作業を必ず取り入れ、知識及び技能の向上を図る。④⑦		
		調べ学習を取り入れ、グループワークやプレゼンテーションを通して思考力・判断力・表現力の総合的な育成を図る。⑥⑦		
	予測困難な社会に主体的に関わり、問題発見能力、解決力の向上を図る。	授業で学んだ知識を用いて、現代社会の問題点を発見し、解決するまでのプロセスにPDCAサイクルを用いて進め、主体的で深い探究活動を行う。①③		
教務	生徒の能動的学習意欲を喚起する。	年間計画（シラバス）を提示し、生徒の計画的・主体的学習に役立てる。①		
		観点別学習評価を明示して生徒の学習の実現状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす。②		
	教科の指導力向上を図る。	授業参観の機会を設定し、指導方法の工夫・改善を図る。①②		
	日常の業務を円滑に遂行する。	出張・年休等による授業変更を円滑に行い、授業時間の確保に努める。②		
		欠席・遅刻・早退・忌引等について、ICTによる記入効率化を促進する。⑨		

		印刷機やコピー機等の使用に際して、用紙等の節約やリサイクルに努める。⑨		
	職員室や教室等の環境整備に努める。	職員室・印刷室内の整理整頓、備品等の管理・保全に努める。⑨ 各教室や特別教室等の環境整備（机、椅子、情報機器、蛍光灯等）に努める。⑨		
	迅速かつ正確な情報発信に努める。	学校案内パンフレット等を工夫し、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。⑧ 学校説明会や授業公開等を通してPR活動を積極的に行い、本校の特色を正しく伝えるとともに、参加者の増加に努める。⑧ 学校WEBページの充実を図り、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。⑧		
	ICTを活用して、竹園高校の活性化に努める。	I C Tを活用した授業展開・HR活動等の推進を図る。② 校務支援システムの運営を円滑に進める。⑨		
	教育課程編成を円滑に遂行する。	各教科からの要望に配慮しつつ、本校の将来構想に沿った教育課程の編成に努める。①		
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	教員・生徒が学校内外で率先して挨拶を交わせるようにする。⑤		
		制服の着こなし等の指導を通して規範意識の高揚に努める。⑤		
	安全管理意識の向上	警察等と連携をして交通安全教室や薬物乱用防止教室、ケイタイスマホ・マナー教室等を実施し、生徒の安全確保に努める。⑤⑥		
		自転車登校生徒のヘルメット着用率の把握と着用率を上げる。⑤		
		中学校と連携をして登校指導を行う。⑤⑦⑩		
		近隣で起きた事件や事故等の情報を速やかに生徒に提供する。⑤⑦⑩ 竹園地区マナーアップ推進事業に積極的に協力する。⑤⑦⑩		
いじめ防止・問題行動の予防	いじめの未然防止・早期発見のため、定期的なアンケート調査(6月・10月・2月)を実施する。⑤⑦			
	移動教室時、施錠をして自己管理、盗難の未然防止に努める。⑤			
進路支援	生徒の適性をとらえ、生徒一人一人のキャリア発達を促す。	各学年と連携することで、生徒の適性の把握に努めるとともに生徒との進路相談等を実施し、生徒の進路実現を支援する。③④		
		大学教員による学部学科紹介模擬授業の実施、一日医師体験等への参加を促すことで、生徒のキャリア形成を図る。③④		
		朝や昼休み、放課後等の学習館の利用促進をはかり、生徒の自学自習の態度を育成する。③		
		県の医学部進学支援に基づき、医学部医学科進学希望者への支援を計画的に行う。③④		
	適切な進路情報を提供する。	進路研究会や進路情報交換会、出願検討会等を実施することで、進路情報を学校全体で共有し、生徒・保護者に進路情報の提供を行う。③④		
		大学説明会や進路研究会等に参加することで、各大学の入試の変更点や新課程入試等についての情報を収集し、生徒・保護者に提供する。③④		
大学合格者数等進路に関する統計をもとに進路要覧を作成することで、本校の進路状況を生徒・保護者に提供する。③④				
3年間を見通した系統的組織的な進路指導體制の構築	3年間を見通した系統的組織的な進路指導體制の構築を行う。③④⑥			
保健厚生	生徒の心身の健康状況を把握して、生徒自らが健康課題を解決できるように努める。	定期健康診断や身体測定を通して、生徒自身の発達や健康状態を知り、健康管理能力を高める。⑤		
		保健室の利用状況等から配慮の必要な生徒の情報を学校全体で共有する。⑤		
	健康・安全教育を通して、生徒の心の教育を充実させる。	防災訓練実施し、講演や安全体験を通じて防災意識の高揚や、非常時の適切な行動の必要性を学ばせる。⑤⑥⑦		
		AED装置を迅速に正しく扱えるよう教員向AED講習会を実施する。3年に一度の受講を促す。⑤		
		保健講話を実施し、生徒の心身の健康や命を大切にすることの教育を支援する。⑤		
学習環境の整備を図る。	温湿度計やサーキュレーターを設置と活用により、教室の適切な換気・温度管理や衛生管理を自らできるように			

		促す。⑥ 清潔な環境維持と豊かな心を育むため、整美委員の活用によるペットボトル等の回収リサイクルや校内美化を促進する。⑥		
図書	探究学習に役立つ図書利用の充実を図るとともに、利用しやすい図書館を目指す。	授業での図書館利用や図書の購入・廃棄に関して、各教科との連携をより一層密にし、本校の教育活動を考慮した購入につとめ、古い図書資料の除籍・更新を行う。①② 新着図書や推薦図書などの広報活動をICTを利用して行う。⑥⑧ 図書委員会において、カウンター当番、年5回程度の館報の発行、年3回の購入図書選定などの活動を行う。⑥		
	図書館利用におけるマナーを向上させる。	図書の無断持ち出しや延滞をしないように指導し、延滞者には年3回督促状を出す。⑤		
渉外	PTA活動の円滑な運営を図る。情報発信の充実を図り、本校渉外部職員と本部役員、支部役員との連絡を密にする。	本部役員会や各種専門委員会の積極的な活動を支援する。③⑥⑦ 本部役員の選出にあたり、中心となって、本部を運営する方を広く募っていく。⑦ PTAのホームページを充実させPTA活動の様子を発信する。⑦⑧ 支部活動が充実したものとなるよう支援する。⑦⑨ 円滑な支部活動のため、支部PTA地域区分の変更を進めていく。⑦ 支部長の年間の活動を伝えていき、本校職員との連携を密にしていく。⑦⑨		
	生徒・保護者の視野を広めるための活動に取り組む。	「進路セミナー」「家庭教育講座」が有意義に実施されるようセミナー委員会と協力し、企画・運営する。③⑦ 生徒の進路希望の実現に向けて、支援を行う。③④⑦ PTA広報紙「樟の木」を広報委員会と協力して発行し、広報紙を通じてPTAや生徒の活動が会員の間でより身近になるようにする。⑦⑧		
	PTAの主体的な活動への協力を行い、信頼関係を構築し、ともに生徒のよりよい学校生活を支援していくよう努める。	支部会の活動に多くの教職員が積極的に関わり、保護者と率直な意見交換を行い生徒の教育活動に生かせるようにする。⑦⑨ 学習環境の整備や生徒の生活規律の向上のため、支部会で取り上げられた意見を、本校の教育活動に活かしていく。③④⑤⑦ 本部役員、支部PTAとの円滑な連携を図り、コンプライアンスを遵守し、信頼され活動を推進する。⑩⑦ 同窓会組織との良好な関係を維持し、学校の教育環境の充実を図っていく。⑦⑧		
教育相談	教育相談の広報活動と教員の理解向上を推進する。	「相談部だより」を定期的に発行（11回）し、また関係機関の広報を行う。⑥ 生徒理解のための職員研修会を実施する。⑥		
	組織的・計画的な教育相談を実施する。	スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターとの連絡を密にし、生徒・保護者の支援が円滑に実施できるよう調整する。⑥ 細やかな生徒の支援のため、ケース会議を実施し、情報共有し、組織的な支援体制を推進する。⑥ 各学年・保健室・他分掌と連携し、必要に応じて、ソーシャルワーカー派遣制度等を活用する。⑥		
特別活動	豊かな人間性を養うため、生徒会や委員会、部活動などの教科外活動を充実させる。	学校行事の在り方を研究し、各学年・各校務分掌と連携して取り組む。竹高生であることの誇りと自覚を持って、学校行事に取り組む姿勢を養い、自走する生徒を育成する。① 部活動や委員会への積極的な参加を促し、活動を通して個性の伸長と豊かな人間性を育てる。①⑥		
	グローバルリーダーの育成を推進する。	生徒会や部活動、委員会活動を通して、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し、自分の意見を交えてしっかりと議論できる力を育成する。①⑧		
究 探	課題解決のスキル獲得のための企画	国際科・各教科・各学年・各分掌や、他の機関(学校・研究所等)との連携・協力を行う。県のIBARAKI ドリーム		

	立案・運営を行う。	パス事業をはじめとした外部のコンテストなどを活用して「自走する生徒」育成のための企画立案・運営を行う。 ①②		
	自ら問いを立て、課題解決のための資質・能力の育成を図る。	第1学年との連携により、「探Q基礎」を通じて、生徒が探究の思考プロセスと手法を体系的に身につけられるようにする。協働的な学習により「目標共有」「率先垂範」「同僚支援」の権限によらないリーダーシップを発揮できるよう支援する。 ①② 第1学年と筑波大学やその他外部と連携し、探Q基礎のプログラムを確立する。また、評価方法を改善し、生徒が自身の成長を実感できるよう支援する。 ①②⑦ 第2学年や外部と連携し、個々の興味関心を重視した普通科の探Qの内容の充実に努める、また、自己のキャリアについて考えられるようにする。 ①②⑦ 国際科・外部指導員・外部と連携し、国際科探Qの内容の充実に努める。また、生徒が自己の学習プロセスを理解し、評価できるようにする。 ①②⑦ 探Q発表会の内容の充実に努めるとともに、探Qを学校行事として生徒主体の運営を確立させる。 ②⑥		
	社会と自己の関わりを考えるため学校間交流等を実施する。	探Qなどをより多くの生徒に有意義なものにするため、4校合同探究交流会への発表生徒を1・2年生とする。また、積極的に外部のコンテストへの応募を促す。 ②⑥ 生徒の主体的な活動を支援する。また、竹園子ども会議などとおしたSDGs活動で竹園地区およびつくば市と連携する。 ②⑦ 生徒の取り組みを学校HP、SNS、新聞などに20以上掲載する。 ⑧		
	新しい教育の研究を行う。	最新の教育技術や教育理論の研究を行う。また、本校の教職員が行っている様々な教育実践を共有し、授業力を高めることに貢献する。 ⑨⑩		
国際科	学科選択の支援	国際科のカリキュラムに対する職員間の共通理解を図るとともに、第1学年と連携し、国際科選考の円滑な実施に努める。③ 説明会、ガイダンス、個別面談などを通じて、生徒が国際科の特色を理解した上で選択できるよう支援する。 ③		
	国際理解教育の推進	国際科のカリキュラムのさらなる充実と深化を図る。③⑥ 探究・教育改革推進部、国際交流委員会、各教科、各学年等と連携し、国際交流を推進する。 ③⑥		
第1学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	挨拶を励行し、服装指導、清掃指導を徹底し、社会規範と個性の調和のとれた行動を促す。⑤		
		朝の登校指導や個人面談を通し、欠席、遅刻をさせない指導を徹底し、基本的な生活習慣を身につけさせる。⑤		
		長欠の生徒には、学年の教員全体で善後策を講じ、問題解決に努める。⑤⑦		
		探究基礎や道徳の授業を学年職員が協力して行うことで、心の成長を促す。①②⑤⑥		
		各種学校行事およびHR活動を通して、クラスの団結を促し、相手を尊重する心や協力しあう姿勢を育むとともに、規範意識を高める。 ⑥		
授業を中心に学習習慣の確立と基礎学力の定着と発展的学習の支援を図る。	予習→授業→復習の黄金サイクルの重要性を意識させるとともに、家庭学習時間平日3時間・休日5時間の定着を図る。 ①②③			
	大学入学共通テストへの対応を念頭に、思考力・記述力を高める授業スタイルを積極的に取り入れ、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。①②③④			
	手帳に、起床、学習開始、就寝時間を記録する習慣をつけさせ、さらに学習時間を見える化させる。③④			
	小テスト等を活用し週末の学習を促すとともに、成績不振者の早期発見ときめ細かな指導に努める。また、成績最上位者の指導にも努める。①②③④			
	個人面談等を利用し、生徒理解に努めるとともに、学習について適切な指導や援助を行う。 ③④			
自己理解と進路意識の高揚を図る。	文理及び学科選択について、HRで情報を提供し、面談を通して生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。③			

		④ 進路情報誌などを活用して進路への興味・関心を高め、自ら情報を収集できる生徒を育成する。③④ 探究活動・大学キャンパスツアー等を通して、より高い進路の意識付けを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。③④⑥ 進路講演会や卒業生による講演等を実施し、より現実的に自分の進路について考える契機をつくる。③④			
第2学年	基本的な生活習慣の維持と心身の健康の育成	挨拶や服装の指導を継続して行うとともに、朝の時間の有効活用を促す。 清掃の指導を徹底し、学習に集中できる生活環境の向上を図る。⑤			
		スタディツアーや尚志祭等の学校行事に積極的に取り組んでいくことで、一人一人が学校の中心となり主体的・積極的な活動を促す。⑥			
		探Q活動に取り組むことによって、多角的な視点を持ち、社会的な諸問題に対する関心・理解を深め、問題解決能力を育み、人間的成長を促す。①②			
	授業を軸とした学習習慣の確立と基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力の育成を図る。	授業の重要性を意識させ、予習→授業→復習のサイクルを促すとともに、小テストをスモール・ステップとして活用しながら、学習時間の確保に努める。グループ活動をととして、ICTを効果的に活用しつつ、他者と議論する力や自己の意見を発表する力を育む。①② 小テスト等を活用し週末の学習を促すとともに、成績不振者の早期発見に努め、適切な対策を講じ、支援する。③			
進路意識を高め進路目標の明確化を図る。	進路講演会・大学研究会等によって、適切に進路情報を提供し、自らの進路を主体的に選択しようとする姿勢を育む。⑦⑧ 個人面談を密に行い、生徒との信頼関係を築くとともに、個に応じた適切な進路目標の設定を促す。③④ 卒業生による講演会等を実施し、より現実的に自分の進路について考える契機をつくる。④				
第3学年	規律ある基本的な生活習慣を継続させ、生徒一人一人の精神的成長を促す	規則正しい生活を継続させ、朝の活用を促し、自学自習時間を大切に。清掃活動や委員会活動等において後輩の範となる生活態度を示せるよう指導・支援していく。⑤⑥ 学校行事においてリーダーシップを発揮し、良き伝統を後輩へ引き継がせていく。学校行事への積極的な参加を通して知徳体のバランスの取れた人間的成長を促し、さらに大学受験に向けて精神的成長を促す。⑤⑥			
	授業を軸とした能動的学習習慣の定着化を図る	学校の授業を基盤としつつも、課外授業や外部模試等を活用しながら、進路を踏まえた自己の興味関心に基づく主体的な学習へと発展させていけるよう学習の支援をする。生徒の授業評価3.4以上を目指す。①② ICTを有効利用した対話的な学びを促進する授業を実践し、教科学習力のさらなる強化を目指す。常に問題解決意欲のある国際社会リーダーとしての資質を身に付けさせる。①②			
	進路意識を高め、生徒一人一人の進路実現の達成を目指す	個人面談・学年集会・日々の学習記録等によってこれまでの進路活動を振り返りながら、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献していく人材になるために、自らの進路を主体的に実現しようとする姿勢を育む。③④ ICTを有効に活用することで、大学入試の傾向を研究・理解して生徒、保護者に適切な情報提供を行う。また、生徒・保護者の進路希望を実現するとともに、地域社会の期待に応える進路結果を目指す。③④			
事務室	予算管理の適正化を図る。	不要予算の削減と必要予算の配分を行い、効果的な予算執行に則した配分を図る。			
		水道料金については、毎日メーターを計測し、漏水の早期発見に努める。			
		電気料金については、デマンド監視装置及び教室の空調機器の集中制御機能の活用等により、節電を行う。			
	施設の安全と環境美化に取り組む。	日常的な点検を実施し、危険箇所の削減を図り、生徒・職員の安全な環境を保持する。			
施設設備の整備計画の見直しを行う。	現状の課題と長期的視点を考慮し、効果的な施設の整備計画の見直しを行う。				

※ 評価規準： A 十分に目標を達成できた。 B ほぼ目標通りできた。 C 目標に届かず、成果が上がっていない。